

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1114 2013年1月号

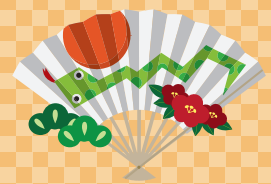
## 頌 春



厳冬期の一ノ森付近（徳島県那賀町）

# 年頭あいさつ

四国森林管理局長 新木雅之



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

振り返ると、昨年は円高の進行等を背景に、西日本を中心に木材価格が大幅に下落するなど、大きな試練に見舞われました。特にヒノキの価格はこれまでにな

価格は昨年半ばに上昇に転じているものの、その動向には今後とも注視が必要で

一方、四国の森林は本格的な利用時期を迎え、森林・林業の再生につながるためには需要拡大が大変重要ですが、本年は、高知県で大型製材工場の操業開始が予定されるなど、地域材利用の気運が高まっているところ

このような中、国有林野事業につきましましては、平成二五年度より一般会計に移行することとなりました。

昭和二二年の「林政統一」以来、特別会計で企業的な運営を行って参りましたが、昨年六月に法律改正が

行われ、事業を一般会計に移行した上で、公益的機能の発揮を一層重視した管理経営を行うとともに、森林・林業の再生に向け、国有林野の組織・技術・フィールドを生かして民有林振興を支援することとしております。

四国森林管理局としても、県、市町村や関係団体との関係を緊密にしなごら、民有林と連携した森林

共同施業団地の設定を進めるとともに、地域林政を支援するフォレスター等の人材育成、市町村森林行政の支援、獣害対策の強化等に取り組んで参ります。



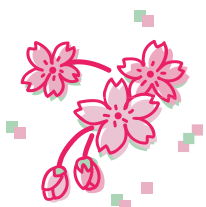
准フォレスター研修（現地研修）

の安心・安全を確保するための治山事業を推進します。また、路網と林業機械を組み合わせた低コストで高効率な間伐を推進し、安定的・計画的な木材供給に取り組むとともに、需要拡大に向け、間伐材の販路確保やバイオマス燃料等の需要開拓にも資するシステム販売の推進、公共建築物等の木造化・内装木質化についての各方面への働きかけ等を行って参ります。

そして、素晴らしい国有林の環境を活用し、レクリエーション、森林環境教育等の場として提供するとともに、森林・林業・木材利用の重要性に対するご理解を深めて頂くための普及活動に努めます。

一方、国有林の多くが奥地に存在し、水源涵養、国土保全、地球温暖化防止等の公益的機能の発揮が求められていることから、針広混交林等の多様な森林の育成を進めるとともに、大規模災害が続発する中、皆様

四国の国有林が「国民の



佐喜浜躍動天然杉郷土の森  
「大杉」の下で



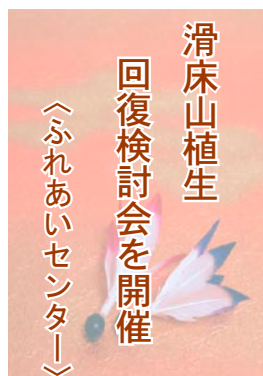
森林」として皆様のご期待、ご要望に応えられるよう努力し、地域と共に歩んで参る所存ですので、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。



屋内開催となった検討会

一〇月一七日、愛媛県松野町民センターにおいて、関係機関、ボランティア団体代表等の関係者二三名が参加し、第八回滑床山植生



各地のたより

回復検討会を開催しました。

宇和島市、松野町、四万十市に跨がり、鬼ヶ城山系の人気スポットでもある滑床山（通称三本杭）山頂周辺

は、平成一二年頃からニホンジカの食害によりミヤコザサ等の林床植生が消失・裸地化したことから、平成一八年度より（独）森林総合研究所四国支所や地元自治体、ボランティア団体等の協力を得て植生の回復に取り組んでいます。

今回は現地で開催するはずの検討会が生憎の荒天となり、「日頃の行いが悪いのは・・・」と冷やかされる中での開会となりました。最初に、当センターから空撮した三本杭やタルミ、

この春、吊尾根に設置したシカ防護ネット柵、ブナ林のギャップの様子などをスライドを使って説明し、順調に回復しつつある現地の状況やこの一年間の取り組み、今後の課題等を確認して頂きました。

エリアでは減少しているように感じるが、山林では依然増加傾向にあり個体数を減らすことが重要等の意見が出されました。

また、滑床山、黒尊山の森林被害共同試験地で、ニホンジカによる森林衰退の実態解明とのニホンジカ採食圧排除による植生の回復の可能性を検証している森林総研の奥村チーム長から、剥皮害の実態やニホンジカ生息密度は依然として自然植生に大きな影響を及ぼす高いレベルにあることなどが報告されました。

愛媛県からは、篠山鳥獣保護区と滑床成川鳥獣保護区で計画している「ニホンジカ個体数調整実証事業」への協力要請がありました。

森林管理局からは、三嶺山系など天然林を中心に「ラス巻き」による剥皮害の保護や管内各地で「囲いワナ」や「箱ワナ」により捕獲していることなどを説明し、今後とも関係者が連携して捕獲に取り組むことを確認しました。

参加者からは、夜間走行中はシカの飛び出し等があり、常にシカを意識した運転をしている。シカは生活

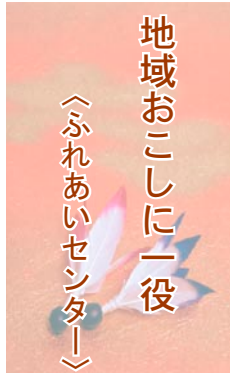
植生が蘇りつつある滑床山山頂やタルミ、藤ヶ生越等の経過観察やシカ防護ネット柵の保守点検等に努める



とともに、拡がるギャップに柵を設置・拡大し、関係者、ボランティア等と協働して植生回復に取り組んでいくこととしています。



蘇りつつある滑床山山頂



一月一日、地元の四万十市西土佐江川崎で西土佐地域の秋の味覚を集めた「四万十うまいもの商店

街」が開かれ、当センターの木工体験コーナーも大盛況となりました。

このイベントは、西土佐ふるさと市組合の主催で、同地域に「道の駅」が開業

する二〇一五年を前に、地域のグルメをPRしようと初めて企画され、当センターには体験コーナーでの参加を要請されたものです。

当日は、昼過ぎまでは生憎の空模様でしたが、ツガニ汁や天然アユの塩焼きなど、地域の約四〇店が醸し出すおいしそうな匂いに誘われてか、次第に混雑してきました。

当センターの木工体験コーナーも、午前中はお母さんに連れられた幼児や仲よしグループがぼつぼつ寄ってくる程度でしたが、

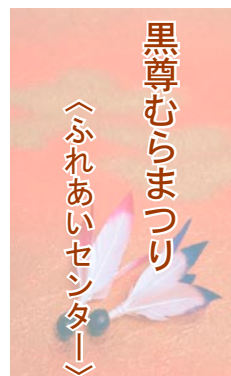
午後になると地元の西土佐小学校が学校行事として来場し、当コーナーにも児童がドツと押しかけ、てんてこ舞いの盛況となりました。

丸太切りしたヒノキの円盤は、職員が皮を剥ぎコースターに加工してお持ち帰り。とりわけクマのストラップは「かわいい」と大人気で、体験者は延べ一〇〇名余となりました。



大盛況の木工体験コーナー

このイベントに参加し、より地域との結びつきを深めるとともに、「四万十のうまいもの」を堪能した秋の一日となりました。



一月一七日、四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で「黒尊まるごと満腹」と銘打って「黒尊むらまつり」

が開催され、多くの方が黒尊渓谷の紅葉と流域の料理を堪能しました。

恒例の「黒尊むらまつり」は、黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で、同会議の構成員となっている当センターは、「作って遊ぼう」コー

ナーと「八面山山登り」の担当でしたが、当日は黒尊川の清流が濁るほどの豪雨となり、山登りは中止となりました。

それでも昼頃からは雨脚も弱まり、遠く南国市からの団体客など沢山の来場者で賑わい、当センターの「作って遊ぼう」コーナーでは、クマのストラップや丸太切りを楽しんでいたできました。

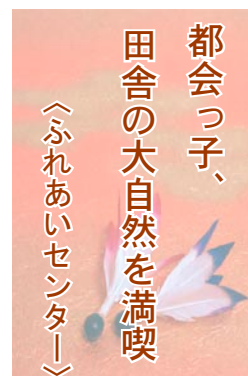
メイン会場となった親水公園では、地元奥屋内の「お菊の滝」の言い伝えにまつわる「播州皿屋敷伝説」の紙芝居上演に人だかり。また、「黒尊むら市」には、地元の食材をふんだんに使った巻き寿司、炊き込みご飯、山菜おこわ、猪汁、シカの串焼きなどが所狭しと並び、買い求める人の行

列が絶えませんでした。

渓谷の紅葉を楽しんでもらおうと企画された「神殿橋紅葉狩ツアー」も大人気で、来訪者は流域の料理を食べ、紅葉を見て、黒尊をまるごと満喫(満腹)し、十分満足されたようです。来年は皆さんも是非お越し下さい。



雨の中でも、盛況「作って遊ぼうコーナー」



一月六日、神奈川県横浜市から神奈川学園の高校生四〇名余りが八面山登山と間伐体験を行いました。初めに、高知県四万十市

黒尊山国有林に、生徒達の先輩が植樹をした箇所ので、野生動物が引き起こす樹木等への被害の現状を説明しました。するとさすが「自然との共生とは」について学習するために四万十川へフィールドワークを希望しただけあって、過疎やシカ害など中山間地域が抱えている問題について熱心な質問が続き、こちらが感心しました。

次の八面山登山では、生

黒尊山国有林での現地学習



徒たちにとっては見るもの聞くもの全てが新鮮な様子で、笑顔と笑い声、特に、ブナに吊したブランコ体験では、楽しい笑い声が絶え間なく続いていました。

登山を終え、黒尊川沿いの親水公園で用意されていた昼食は、田舎飯「猪汁」と「竹飯」で、生徒たちは、「おいしい！」を連発していました。

その後の間伐体験では競

い合って鋸を挽き、木が切り倒されるたび、その迫力に圧倒され歓声を上げていました。

続いて、一月二日、中学生が炭焼き体験と四万十川周辺での森林学習を行いました。

到着早々の森林教室ということで、生徒たちの意識をうまく惹きつけられるか心配でしたが、炭焼きの説明後、材料のドングリや松ボックリを選ぶまなざしは真剣そのものでした。

出来上がりを待つ間、近くの山を散策し、野生動物害や樹種、植生について勉強していましたが、ニホンジカの糞を見つけてはパチリ、カエルを見つけてはパチリ、珍しい形の葉も撮影モデル。普段は見過ごされる四万十の生き物たちもこ

の日ばかり大モテでした。約一時間ほどで森林学習を終えると炭も出来上がっており、取り出した作品は生徒たちも驚く出来栄でした。

中学生、高校生とも半日や一日という短時間の森林学習ではありましたが、四万十の大自然に触れ、得た物は大きかったのではないのでしょうか。



間伐体験





一月二七日、四万十市立利岡小学校の全校児童三六名を対象に木工教室を開催しました。

まず、当センター職員から森林の働きについて話をしました。

森林は、木材を供給する外、水を貯えたり、山崩れを防いだり、二酸化炭素を吸収するなど普段は気がつかないようなところでもいろいろな役割をはたしていることを、絵や写真をつかって低学年にも分かり易く説明しました。

その後、ノコギリやクラフトナイフなど刃物の安全な使用方法を説明して木工

制作に取りかかりました。サクラの枝を使い、輪切りにしたり小枝を切ったりして、部材からすべて自分たちで作ります。

とにかくノコギリで木を切ることが楽しくて、職員の「何を作るの？」の問いにも首をかしげて「？」の一年生、クラフトナイフやドリルを器用に使って独創的なオブジェを作る六年生など、みな思い思いに作ります。

職員は、児童が作りたいたものにに応じてアドバイスをしたり、手伝ったりで大忙しでしたが、約二時間でクマのストラップや置物など、児童それぞれが趣向を凝らしたオリジナル作品を作り上げ、友達同士で見せ合っていました。

学校の周りでもカエデや

フウなどが赤や黄色に色づき、森林を眺めるにも良い季節で、「森の恵み」を一層感じてもらえたものと思えます。



みんな夢中



高知県四万十市立中筋小学校からの支援要請を受け、一月二九日は六年生一二名、二月四日は一、

二年生一〇名が木工製作に挑戦しました。六年生への出前授業では、単に「木材と親しむ」だけでなく、木材の役割も

学んでもらおうと、まず、「木材の持つ炭素貯蔵機能」の講義を行いました。

さすがに六年生ともなると、光合成に関する知識もあり、「木は製品になって二酸化炭素を貯え続ける」ことや「カーボンニュートラル」の話を良く理解しながら聞いていました。

いざ、木工制作になると、日頃遊んでいる時に思いついたのか、「釣竿立」といった、こちらが思いもよらないようなものに挑む男の子たちもいました。

結局、丸い枝と普段使用している工具では完成に至りませんでした。彼らも

自分たちの手に「負えること」と「負えないこと」を肌で感じ、何かを学んだようでした。

一、二年生は、バザー出店用に「クマのストラップ」を一人三個作製することを目標としましたが、時間内に作るため、予め桜の木の枝等の輪切りを木工ボンドで貼るだけの、簡単な方法で行いました。

簡単に作り方の手順を教えて始めると、あっという間に三個出来上がりしました。かわいらしく出来上がった「クマのストラップ」を見て一個は家に持って帰りたいという意見があり、結局余分に二個から三個作製しました。

次に、マツボックリを使って「クリスマスツリー」作りに挑戦しました。ま

ず、土台となるサクラの枝を職員と一緒に鋸を使って切り、その上にマツボックリの底にホットボンドを付着し固定しました。そして、各自がマツボックリに思い思いにポスカで色を塗り、仕上げにキラキラのビーズをつけて完成。

この日の木工体験を通して、森林や木材への関心・興味に繋がる一歩となりました。



私はこれにしよう！



一月一五日、松野町立松野西小学校の四年生二六名を対象に、今年度最後の六回目となる森林教室（炭焼き体験）を行いました。

始めに、スライドを使って炭の種類や利用法を説明し、白炭と黒炭を使った実験をしました。ノコギリを使っての切断では、黒炭は簡単に切れたのに、白炭は堅くてなかなか切れませんでした。また、白炭を木の棒でたたくと「チンチン」と鉄琴のような綺麗な音色がして、黒炭との違いに驚いていました。

続いて、炭焼き体験。児童達は、職員から手順や注意点を聞き、早速、ブリキ

缶の中にもみ殻とともに、マツボックリやドングリ、折り紙で折った鶴や手裏剣などを詰めて、ドラム缶のたき火の中へ並べました。

そして、アルミホイルに包まれたサツマイモが炭になるかについての実験もしました。たき火を囲み、焼くと約三十分、ブリキ缶から出る煙の色が透明になる一方、アルミホイルからは気になる匂いが漂いだし児童達はひそひそ、そわそわ。

どちらもたき火の中から取り出し、ブリキ缶が冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けて見ると、芋は皮だけが黒く焼けて焼き芋となり大失敗。しかし、折り鶴や手裏剣などはちゃんと炭になっていました。

六月から始まった今年度の松野西小学校四年生の森林教室は、今回で終了とな

りましたが、これまでの森林学習の成果を、三学期に行われる「わくわく発表会」で発表することので楽しみです。

なお、失敗作の焼き芋は、みんなで美味しくいただきました。



白炭は堅くて切れない



一二月一日、徳島県那賀

町の剣山の南斜面（鎗戸国有林一三四林班及びその周

辺）において、南つるぎ地域活性化協議会が主催した登山道の保全ボランティア活動「第三回おひさんプロジェクト」が行われました。

当日の参加者総勢二八名で、協議会構成員の徳島県南部総合県民局やNPO法人剣山クラブの会員の他に、協議会から呼びかけに応じた一般ボランティアの方々も参加していただきました。なお、当署からはサポートスタッフとして、総務課長、業務課長、木頭森林官の三名が参加しました。

作業前に業務課長から、最近歩道からの滑落、雑木の跳ね返りによるケガが起きていますので十分注意をして作業するように、参加者

にお願ひしました。当日は、大変気温が低く、上の方の剣山方向は雪模様





土のうによる階段作り

で、冷たい雪が舞う中で、作業となりましたが、剣山の中腹の「ほら貝の滝」までの登山道二・六kmを、登山者が安全にアクセスできるように、それぞれ手分けして登山道周辺の刈払いや落下した栈道の架け替え、土のうによる階段作設、滝つぼに流れ込んだ流木の除去などの作業を行いました。

半日たらずの作業時間でしたが、南つるぎの登山道は見違えるようにきれいになり、安全性も格段に高まったと思います。

当署としては、「国民の森林」である国有林を安全に楽しんでいただくため、このような取り組みに引き続き積極的に参画していきたいと考えています。



十一月十八日、高松市塩江町において、「12 クリーンウォーク in しおのえ（不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦）」が行われました。

このクリーン作戦は、クリーン高松推進事業として、塩江町の三校区（安原・塩江・上西）衛生組合協議会が協同実施したもので、地域住民や一般市民ボランティア、行政関係者の

約八百名が参加しました。

当所は、ボランティアや高松市の関係者と一緒に、大滝山自然休養林がある鷹山国有林から大滝山県民いきの森キャンプ場にかけて巡回し、不法投棄の監視

やごみの回収を行いました。大滝山自然休養林は、高松市の水源となっている香東川こうとうがわの源流域に位置し、水源の森百選ひゃくせんに選定され、また、大滝大川だいせん県立自然公園にも指定

されており、水源のかん養や保健休養の場として重要な地域となっています。

当日は、空き缶やペットボトルのほか、自転車、カーペット等を回収しました。

このクリーン作戦は、七回目の実施となりますが、日頃の住民の方の地域をきれいにしたいという思いや高松市の協力もあって、



回収したゴミ

年々ごみの量が減ってきています。今後も、ごみの不法投棄を防止するため、さらに地域や高松市等と連携を深め、巡視や清掃活動等の保全管理に取り組んでいきたいと考えています。



一〇月二〇日、二一日の両日、愛媛県久万高原町の久万公園ほかにおいて、「久万林業まつり」が開催されました。このイベントは、

森林・林業の活性化を通して地域の振興を図ることを目的として、久万高原町及び森林・林業関係団体等がステージでの催し、木製品・農産物等の展示・即売会、林業用刃物・飲食物の露店販売等を行っているもので、今年度で第四二回の開催となり、当署も毎年参加しています。

当署では、木の枝等を使った昆虫の絵づくりや森林の働き等を説明したパネル展示、パンフレット配布等を行いました。昆虫の絵づくりには、大勢の親子連れが訪れて、行列までできる人気となったため、二分の材料が一日で底をつきそうになり担当者をあわてさせるなど（材料を工夫するなどして何とか乗り切りました）うれしい悲鳴をあ





木を使うって楽しいね

こういったイベントに、積極的に取り組むこととしていきます。



一〇月三〇日、「森の巨人

げる状況となりました。近年、子供のころから木と触れ合う「木育」が関心を集めています。改めて子供の想像力の素晴らしさに驚かされながらも、完成した作品を親に自慢しながら誇らしげに説明する子供たちを見ていて、木の素晴らしさと森林環境教育の重要性を再認識させられました。当署では、森林・林業、国産材について関心を持ってもらえるよう今後もこ

たち一〇〇選」に選定されている「猪伏の大トチ」への遊歩道（約2km）沿いに設置されている樹名標杭（約五〇本）の補修作業を行いました。これは、平成一九年に、えひめ森の案内人会、久万高原町巨樹・巨木保全協議会、愛媛森林管理署等で整備したもので、雪や豪雨等のため流出、傾斜・折損等が見られるようになったため、今回補修・整備することとしたものです。

樹名標杭を補修中



当日は、えひめ森の案内人会一三名と当署職員二名の一五名で、流出、折損しているものは交換し、傾斜しているものは、鍬、ショウレン、カケヤ等を使い埋設・固定し直しました。さらに、今回の修理に備え、樹木と樹名標杭の写真や位置を図面に記録する作業も行いました。あいにくの曇り空で気温が下がり寒い一日となりましたが、鮮やかで多様な

色を放つ紅葉が始まっていて、これから訪れる多くの方々の喜ぶ笑顔を思うと、疲れや寒さも吹き飛び、充実した活動であったと感じることができました。

また、えひめ森の案内人会では、樹木名等の研修会も兼ねた活動とし、樹木に詳しい会員を講師として、ケヤキ平の樹木の勉強会も行いました。各会員は、「野草や野鳥はわかるのだが、落葉した樹木は難しいねえ。」と、図鑑等を睨みながら説明を受けていました。



補修・整備後の樹名標杭



一月二七日、高知市工石山青少年の家で大豊町立大杉小学校四年生九名（教員二名）を対象に森林教室を実施しました。

当初は、工石山において間伐作業を体験する予定でしたが、前日の降雨による足元の不安定さを考慮し、



森林教室（森の働き等）

屋内で森林教室を実施した  
ものです。

最初に「みんなでまわそ  
う森作りの輪 木づかいの  
輪」と題して、指導普及課  
より森の働きと間伐の必要  
性、木製品の用途について  
の説明したところ、子供た  
ちは様々な物に木が使われ  
ていることや、合板の作り  
方に驚きの声が上がってい  
ました。

その後、写真立ての見本  
を見せて作り方を説明した  
のち、個々に作業にとりか  
かりました。

どんぐりをたくさん使い  
タワ―を作る子、細かい作  
業で小動物を作る子など子  
供たちの自由な発想で個性  
豊かな写真立てが出来上が  
りました。

最後に子供たちから、森  
のことをもっと勉強して

いきたいなどの感想をもら  
い、有意義な森林教室とな  
りました。



写真立て制作中



一月二日、室戸青少年

自然の家が主催する体験の  
風リレーシヨンシップ事業  
「キッズデイ」のイベント  
に当署職員四名がクラフト  
講師として参加しました。

当日は高知県内各地の親子  
約一〇〇名を対象に親がク  
リスマスリース作り、子供  
が「壁掛け飾り」作りに挑  
戦しました。

壁掛け飾りを作る前に、  
森林を身近に感じてもら  
い、森林のはたらきを理解  
してもらうために、「森林  
からの贈り物」と題した紙  
芝居を当署職員が親子の前  
で読み聞かせました。



森林からの贈り物（紙芝居）

子供達からは「森林は  
手入れが必要ということ  
初めて知った。」「木はいろ  
んなところに使われている  
ことに気づいた。」「森林や  
動物の絵が面白かった」な  
どの感想がありました。そ  
の後、別室に移動し壁掛け  
飾り作りを開始。子供たち  
が自由に色を塗った星や雪  
だるまの木片や、国有林内  
で採取した木の実を、予め  
準備したクリスマスツリー  
を型取った板に貼り付けた  
りして作成しました。始め  
はとまどっている子供も多  
かったのですが、職員や大  
学生ボランティアのサポー  
トにより、自発的に工作に  
取り組みだし、中には夢中  
になり終了時間が過ぎても  
頑張っている子もいました。  
「この木の実はなんて名前な  
の?」「これはどこで採った  
の?」などの子供らしい声  
もあり、クラフト講師の職  
員も丁寧に応えながらの工  
作となりました。樹木に対  
する興味も深まり、また、  
大学生からも「どんぐりが  
樹種によって形や大きさな  
どが違うことを知らなかつ  
た。」という意見もあり、色々  
な人に森林への興味をもつ  
てもらいました。

準備したクリスマスツリー  
を型取った板に貼り付けた  
りして作成しました。始め  
はとまどっている子供も多  
かったのですが、職員や大  
学生ボランティアのサポー  
トにより、自発的に工作に  
取り組みだし、中には夢中  
になり終了時間が過ぎても  
頑張っている子もいました。  
「この木の実はなんて名前な  
の?」「これはどこで採った



素敵な作品完成

